

令和5年度第4回 新発田市地域公共交通活性化協議会 議事録

1 日 時 令和6年3月27日（水）午前10時00分～午前10時45分

2 場 所 健康長寿アクティブ交流センター あおり館 屋内広場

3 出席者

委 員	所属団体・職名	備考
伊藤 純一会長	新発田市副市長	
加藤 康弘副会長	新発田商工会議所 事務局長	
高野 健太委員	新潟交通観光バス（株） 新発田営業所長	
庭山 奈津子委員	新発田市ハイヤー・タクシー協会 会長	代理出席：副会長 鈴木委員
吉田 勤委員	東日本旅客鉄道(株)新潟支社 企画総務部 経営戦略ユニット ユニットリーダー	代理出席：マネージャ ー 太田委員
宮下 正一委員	NPO 法人七葉理事長	
岡田 英治委員	国土交通省北陸地方整備局 新潟国道事務所 計画課長	代理出席：計画課 道路分析評価係長 近委員
山郷 和久委員	新発田地域振興局 地域整備部長	
穴水 雄二委員	新発田市 維持管理課長	
本間 淳悟委員	新発田警察署 交通課長	
佐藤 武男委員	新発田市自治会連合会	
渡辺 肇委員	川東地区自治連合会	
小池 文廣委員	運行地区代表者	
新倉 孝礼委員	国土交通省 北陸信越運輸局 交通政策部 交通企画課長	
阿部 久紀委員	新発田地域振興局 企画振興部長	代理出席：地域振興専 門員 樋熊委員
小室 千代子委員	日本労働組合総連合会 新潟県連合会 下越地域協議会事務局長	

事務局（市民まちづくり支援課）

太田貴輝課長、石井広通室長、田中俊介係長、蒲木みゆき係長、小田切達也主事、  
新保恭子主事

## 4 会議概要

### (1) 開 会

### (2) 会長挨拶

おはようございます。少し前に委員の皆様へ新発田市地域公共交通計画を送付させていただきました。皆様のご理解とご協力で計画を策定できたことに、感謝を申し上げますとともに、計画の目標を達成するため事業を進めていきたいと考えています。

また昨日、令和6年度予算の議決を得たということで、公共交通予算についても含まれており、本日の会議では、令和6年度の予算審議が議題となっている。

5月には、紫雲寺路線の切り替えそして令和3年度から年次計画で展開してきた最終地区となる佐々木地区の見直し検討を行う計画である。

公共交通について、利用がなかなか定着しないなど課題も多くあるが、新年度も皆様の知恵やご助言をいただきながら、取り組んでいきたいと考えており、引き続きお力添えをお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

### (3) 議 事

#### ○議長

本日の会議について、規約第9条第2項の規定により、過半数以上の委員の皆様から出席いただいているため、会議が成立していることをご報告申し上げます。

#### 【第1号議案】新発田市地域公共交通活性化協議会規約の一部改正について

事務局から資料に基づき説明後、質疑に入る。主な内容は以下のとおり。

- ・令和5年10月1日の改正道路運送法の施行に伴い、運賃を協議する分科会を設置したことから、規約の一部を改正するもの。
- ・第5条の協議事項等で「運賃・料金」に関することを削除し、第10条の分科会の設置で計画の検討及び実施等に限定せず、運賃・料金を含めた協議事項全般について設置できるように改め、期日は改正道路運送法の施行日となる令和5年10月1日に遡って適用させていただきたい。

質疑無し、議長から諮り、全員異議なく承認された。

#### 【第2号議案】令和6年度事業計画（案）及び予算（案）について

事務局から資料に基づき説明後、質疑に入る。主な内容は以下のとおり。

（令和6年度事業計画（案）について）

- ・これまでの継続項目に加えて新規取組を実施していく。
- ・主な重点取組や新規取組は以下のとおり。
  - 市街地循環バスの運行見直しの検討
  - 紫雲寺地域公共交通の整備
  - バス位置情報システムの対象地域の拡大（紫雲寺地域）
  - 佐々木地区公共交通の見直し

(令和6年度予算(案))

- ・歳入歳出はそれぞれ140,456,000円
- ・歳入は市からの補助金135,456,000円と地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金で5,000,000円を計上
- ・歳出は、継続事業である「振込手数料」、「各路線の運行委託費」、「バス運行状況システム及びキャッシュレス決済システム」、「利用促進費」、新規事業として「バス運行状況システムの対象地域拡大」、「紫雲寺地域公共交通」、「佐々木地区公共交通運行準備」を計上
- ・令和6年度は令和5年度と比較して14,309,000円の増額。主な要因は紫雲寺地域公共交通の運行委託費が入ったため。

質疑無し、議長から諮り、全員異議なく承認された。

#### 【報告(1)】路線運賃協議分科会の協議結果について

主な説明内容は以下のとおり。

- ・紫雲寺地域公共交通の運賃について、新発田版デマンド方式の先行地区と同一の体系とし、地区の境界を加治川橋に設け、地区を越える乗車を300円、地区内の乗車を200円とすることで全ての委員が承認した。また、市ホームページで意見を募集し、意見の提出数は0件であった。

#### 【報告(2)】コミュニティバス運行内容の一部変更について

主な説明内容は以下のとおり。

- ・市街地循環バス及び菅谷・加治コミュニティバスについて、JRのダイヤ改正に伴い、令和6年3月16日に一部ダイヤを変更。
- ・川東コミュニティバスについて、下岡田停留所のバスベイ供用開始に伴い、令和6年2月9日に新発田駅方面行きの停車位置を変更。
- ・菅谷・加治コミュニティバスについて、令和6年3月1日に停留所名称を「JA北越後前」から「JA北新潟前」に変更。

## 5 その他

### ○委員

公共交通は地域住民の移動の手段であるが、地域外からの観光者の移動手段としても大事だと考えている。観光分野との連携について、今後考えていることがあれば、教えていただきたい。

### ○事務局

地域の検討会議では地域内に点在する公共交通空白地域の解消を第一に協議してきた。観光分野とは担当者同士で情報交換をしているが、これまで観光者に公共交通利用の働きかけするには至っていない。今後テーマに挙がってくると考えている。

○委員

高校生は公共交通の主な利用者になっているが、高校生から広く意見を聴取する機会を設けるなどの考えはあるのか。

○事務局

利用者のターゲット層は高校生と高齢者だと考えている。高校生に向けた利用促進として、今春中学校を卒業した中学3年生に高校通学に向けたチラシを配布するなどアプローチしている。高校生との意見交換の予定はないが、路線切替を行う際、高校生を含めた利用者からの聴き取りや市職員が乗車する乗降調査では高校生の利用状況などを確認している。

○委員

地域にお住まいの方々と観光客の利用を両側面で支えていくのは難しいと認識しており、国の方では、公共交通を様々な関係者と連携して支える、共に創る「共創」を目標に掲げている。予算も実証運行に係る経費など補助率 2/3 と手厚くなっているので、今後見直しを予定している佐々木地区を含め、様々な関係者と連携した運行を検討していただきたい。

公共交通の専門家から高校生へのアプローチが足りていない地域が多いとの指摘を受けることがある。運行便数のことだけでなく、車内に充電ポートの整備や Wi-Fi が利用できるなど、移動を快適にすることも公共交通を利用していただけるきっかけになると考えている。

また、公共交通の研究者や専門家を紹介するサービスを開始しているので、そのような方々の話を聞きたいとか先行事例の紹介など希望される場合、北陸信越運輸局まで連絡いただきたい。

○委員

川東地区もいずれはデマンド方式を検討する必要があると考えており、松浦地区公共交通の状況や課題を教えていただきたい。

○事務局

松浦地区は平成30年度に定路線迂回型の運行に切り替え、利用者は増え続けており、約1.6倍になっている。ワゴン車両を用いて、こまめな運行をしているが、予約を受けて迂回する停留所の中には、利用がない停留所もあり、地域の方々が車両を目にする機会がなく、地域によっては定着まで至っていないことが課題として考えている。

6 閉 会